

最高学部

2023 年度生活経営研究実習

神 明久

生活経営研究実習とは、自由学園最高学部(大学部)1・2 年生の必修科目であり、学生は6つのグループに分かれ、自由学園の運営に直接かかわることで、課題発見・解決のプロセスを実践的に学ぶ。また、そこで得られた知見を通して、社会の問題について考え、後期課程での研究活動に生かすこともこの講義のねらいの1つである。以下に、2023 年度の実習の活動内容について、2024 年 2 月 22 日に行われた生活経営研究実習報告会の内容から述べる。

庭園・自然環境:樹木

樹木庭園グループでは、毎年、校内にある果樹から様々な果実を収穫している。例えば、5 月下旬には梅、11 月には柚子、1 月から花梨などを収穫する。そして、これらの収穫物は、すべて食グループによって加工され各部の食事やしのめ茶寮の昼食で使用された。また、発展的な活動として、今年も竹林で間引いた竹を使い、竹柵や門松を制作し、校内や正門に配置した。また、これに加えて、今年から梅について定点観測を始めた。1 月から報告会まで同じ時刻に観測・撮影を行い、開花の時期について調査した。ここで得られたデータは、来年度の梅の管理に役立てる予定である。また、座学としては、園芸学の基礎的な知識習得に加え、樹木ごとの剪定方法、土壌の成り立ちや組成について、堆肥について学ぶため市内の農園の見学なども行った。また、今年度は、金木犀についてフェノロジーの観点から調査をし、年々開花時期が遅くなっているという結果を報告した。また、周辺地域の気温上昇や雨量の減少などが原因ではないかという予測をデータに基づき説明した。

庭園・自然環境:草本・灌木

草本グループでは、主に 1 年生が南沢キャンパスを、2 年生がその参照地として、校内を流れる立野川の最上流である向山緑地をフィールドとして活動している。実習では、環境保全の一環として毎週の観察記録及び野生植物の手入れなどを行っている。また、地域との関わりとして、春と秋に自由学園内での自然観察会を行ったり、2003 年から毎年東久留米市の環境フェスティバルにも参加している。今年度は、例年行われている報告に加え、掲示板を使った情報の発信と共有についての取り組みと向山緑地・立野川源

流域の湧水についてより詳しく取り上げた。発信・共有では過去からの掲示板を使った取り組みが紹介された。また、湧水に関しては、湧水時期が例年より長くなった原因について、周辺の気象観測データを参照しながら考察した。

食

食グループの 1 年生からは、春期のジャム作りやタケノコの加工などの実習と秋期のクッキー販売について報告があった。クッキー販売では企画の立案から、材料の選定、原価計算、食品表示のシールづくりなどを行った。販売予定数に生産が追いつかず予定よりも少ない販売数となったが、購入者からは良い評価も得られた。2 年生は「栄養豊富で低カロリー」「学園の秋を味わってもらおう」「学園の冬を味わってもらおう」の 3 つのコンセプトを考え、1 年間で 3 回のカフェ運営を行った。売上金額や来場者数、他のグループとの連携などを紹介しつつ、各回で見つかった課題についても報告があった。また、1 年生からは卒業生から指導を受けたジェラート作りに取り組むことと、新入生のサポートを充実させたいという次年度への展望も述べられた。

資源・エネルギー

資源・エネルギーグループの報告は、秋期行った活動として主に 1 年生は報告会資料作成とプロジェクトマネジメントを利用した教室の床清掃について、1, 2 年生合同の活動として、体操会本部の設営、クリスマスイルミネーション制作、青空コーヒーについてだった。1 年生の報告会資料については、単に編集ソフト等のトレーニングではなく、冊子体を制作する様々な工程を学んだ。1, 2 年生合同の活動に関しても、本部設営やイルミネーションについては、計

画から実行、経費の捻出など、様々な角度からの学びについて述べられた。青空コーヒーは、移動式のソーラーパワードカフェで、エネルギー消費について身近なところから考えてもらうことを目的に企画された。本格運営までには至らなかったが、細かい部分までよく考えられた企画だった。2024 年度には是非本格運用するところまで行きたいという事だった。

農芸

農芸グループからは、主に野菜の栽培、温室等での花の管理と切り花の制作及び販売、校舎の工事に伴うバラの移植について報告があった。野菜の栽培では、キュウリが例年より豊作だったことや人参が天候の影響で不作だったことが取り上げられた。また、生活団の子どもたちへの栽培指導も行い、食の大切さを学んでもらえる良い機会となった。温室での花の栽培については、約 20 種の植物の日光調整や枯葉の切り落としなどの手入れを行っていることや育てた植物を使った切り花の作成方法、さらには作成した切り花の活用について報告があった。特に今年度は、しのめ茶寮での外部向け販売も行い、地域との交流の良い機会が得られたとのことだった。続いて、校舎の改修に伴い、50 年の歴史あるバラの移植を行ったことについて報告があった。このバラは、バラ育種家の鈴木正道先生のご指導のもと植えられたもので、卒業生の専門家の指導の下、12 本のバラを無事移植することができた。

図書・記録資料

図書グループの 1 年生からは図書館学や資料に関する理論的学習とその実践として、高等科 3 年生への記録に関する授業や図書館見学についての報告があった。また、図書館の利用を増やすため、周辺環境の活用を視野に入れた案を見学等からヒントを得て提案した。2 年生は、4 つの研究テーマについて、各担当者が報告した。1 つ目は自由学園の戦争・平和に関する学びについて、主に学園新聞に基づいた研究だった。取り扱う範囲は、いわゆる平和教育の分野だけではなく、より広い範囲を対象とした。2 つ目は、自由学園の自治生活におけるアーカイブの意味と活用、3 つ目は最高学部のカリキュラム改革の流れ、最後は探求の学びの記録と持続可能な記録作成システムの構築についてだった。どれも、資料を使いしっかりとした考察がされていた。

合同実習

合同実習は、普段は別々に活動しているグループが合同で活動する実習で、互いの活動をより理解したいという学生の発案によって始められた。今年度も、タケノコの収穫・加工や新天地の藪整理、クリスマスイルミネーションなど 6 つの実習が行われた。それぞれ、自分たちの学んでいる専門を通して他グループの活動を見る良い機会となったと学生リーダーが締めくくった。

報告会を終えて

実習自体は、毎年同じ活動を繰り返す部分がそれぞれあるが、世の中の情勢や環境の変化によって、常に変化を求められている。そういった意味では、同じことの繰り返しではなく、学生も教員も日々新たな挑戦を強いられている。コロナ渦、そしてその後、人数減や中高の共学化など要因は様々だが、それらによって変化することが求められるのは、生活に根差している活動だからである。まるで生き物のようなこの活動が、この先も立ち止まらず変化し続けてほしいと願う。

参考文献

神明久 (2024) “2023 年度自由学園最高学部生活経営研究実習報告会について”, 生活大学研究 vol.10 (投稿予定)